



地域営農指導担当者にご相談ください。(業務用携帯です。営業時間以外はつながりません。)

農業所得の向上を目的として稲刈り終了後の圃場で、ブロッコリー・広島菜の栽培に取り組んでみませんか！初めての栽培でも安心して取り組むことができます。栽培～収穫まで営農指導員が丁寧に説明し巡回指導を行います。気になる点・疑問点などありましたらお気軽にお問い合わせください。



瑞穂地区
白須 紀之
☎ 080-2910-9277



羽須美地区
益田 佑一
☎ 080-2910-9274



石見地区
前田 晃弘
☎ 080-8230-2580



川本地区
牛嶋 一貴
☎ 080-2904-4767



美郷地区
永井 強治
☎ 080-8230-2981



桜江地区
森野 茂
☎ 080-8230-9543

水 稲

【水管理について…7月～8月】

- (1) 幼穂形成期～穂揃期…根の活力を保つ！！
稲の一生で最も水の必要な時期になります。根ぐされや下葉の枯れ上りを防ぐため、こまめな間断灌水を行いましょう。
- (2) 穂揃期～登熟期…水田の夜間温度を下げる努力を！！
出穂後20日間は米の肥大が旺盛な時期なので、土壌水分が不足しないよう間断灌水を行い、根の活力を保つために常時の灌水は避けてください。また、夜間に高温が続く場合は心白粒対策のため、夜間の用水のかけ流しを行ってください。
- (3) 落水…早期落水をしない！！
早期落水は玄米の充実不足や、未熟粒、死米を増加させます。また、胴割れ粒や過乾燥の原因となり品質を低下させるため、落水は穂揃い後25日頃(熟れ色の着き始め)を目安にしてください。

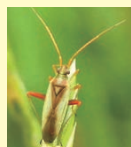
【病害虫防除…穂いもち、紋枯病、カメムシ、ウンカ】

※防除にあたっては稲作ごよみ又は、右の二次元コードを読み取りご確認ください。
その他何かありましたら、営農指導員へご相談ください。

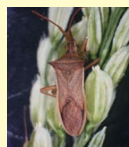


○斑点米の原因となるカメムシ類と葉を食害するフタオビコヤガ

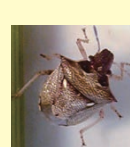
カメムシ類は、水田周辺の雑草で増殖し、稲穂が出るのと穂に集まり実を吸汁し、斑点米を発生させます。フタオビコヤガは幼虫が葉を食害し、葉にカスリ状の食痕が見られ、多発すると葉が食いつくされて中央の葉脈だけが残ります。



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ



フタオビコヤガ
(イネアオムシ)

※農薬散布については、使用時期、使用方法を守り、予防的防除を心がけましょう。